渋谷のハロウィンとスクランブル交差点

佐々木　隆

プロローグ

二〇一八年の渋谷でのハロウィンは例年になく、大きな話題となった。その理由は十月二十七日～二十八日にかけて起きた渋谷センター街で軽トラックが横転されるというハロウィン騒動を象徴する事件だ。この事件をマスコミは大きく取り上げた。(一)何故、渋谷のハロウィンはこのような騒動となってしまったのか、二〇一九年の渋谷のハロウィンの行方はどうなるのかを取り上げたい。

一　最近の日本のハロウィン

公共の場で仮装してさらにパレードしてハロ

ウィンを楽しむイベントが開催されたのは、一九八三年に原宿のキディランドが最初と言われている。筆者はすでに「ポップカルチャーとしてのハロウィン」（二〇一七）で海外と日本のハロウィンを比較して、日本のハロウィンの三大特徴：

「第一　長期化の傾向」「第二　仮装の多様化」「第三　イベント化」を指摘した。(二) しかし、この傾向はもはや日本だけでなく、世界に波及しつつあるのかもしれない。ここで更に注目しておきたいのは第三のイベント化である。宗教的な本来の意味を失い、仮装し大勢が集まるイベントとなったことだ。

ハロウィンは元来ドルイド教を中心とするケルト文化で十一月一日に祝われたサムヘインの祭りに由来するものであるが、異教徒の祭りがキリスト教に取り込まれ、キリスト教の聖人の祭りと融合し、さらに、ヨーロッパのハロウィンがアメリカで変容し、それが日本に受容されたという背景がある。(三) 日本での大きな特徴はこどもが中心のイベントではなく、若者中心のイベントになったことだ。東京では主催がいないが、若者が集まってくるのが渋谷ということだ。

二　若者を引き寄せる「場」としての渋谷

渋谷には戦前から象徴となるものが誕生していた。一九三四年にはハチ公銅像が設置され、一九四八年頃には進駐軍の兵士にラブレターの翻訳・代書をする「恋文の店」が登場し、やがてその周辺は恋文横丁を呼ばれるようになった。では現在もなぜ、渋谷に若者が集まるのか。基点をどこに置くかは難しいが、ひとつには渋谷のシンボル的存在であるＴＯＫＹＵ１０９はヤングレディスファッションのトレンドの発信拠点として一九七九

年に文化村通りと道玄坂が合流する元恋文横丁に「ファッションコミュニティー109」としてスタートしたことから始まったのである。渋谷には戦前から映画館があり、一九六九年にはアングラのジァン・ジァンが、一九七三年にはパルコがオープン、一九七八年に東急ハンズ、一九八九年にBUNKAMURAがそれぞれオープンした。ファッションでも青山と原宿とは違ったファッションを展開している渋谷。そして、大きな起点となったのが二〇〇二年の日韓ワールドカップだろう。渋谷駅前のスクランブル交差点で日本代表の試合が終わるとハイタッチする光景が誕生した。相撲でもなく、野球でもなく、サッカーが巻き起こした現象である。(四)

しかし、これには前段階がある。スポーツカフェやスポーツバーの存在だ。試合を観戦しながら、食事やお酒が飲めるのだ。試合をモニターやスクリーンで見やすくしているため、人が集まりやすい。日韓ワールドカップを境に渋谷にこうした店が続々とオープンした。それまではいわゆる飲み屋、居酒屋に集まって観戦するというスタイルだった。渋谷にはもともとアルコールを提供する店が多くあるのは周知の通りだ。観戦を目的とした店ではないため、モニターやスクリーンが大きいわけではなく、またモニターなどがない場合もあるかもしれない。

三　自由の象徴スクランブル交差点

日本にはもともとスクランブル交差点はなかった。歩行者天国や斜め横断はもともと日本には無かったのだ。一九七〇年に始まった歩行者天国は一種の自由の象徴的な役割を果したと言ってもよいだろう。インターネット上に掲載されている岡

本亮輔「なぜ人はスクランブル交差点に集まるのか『世界最大の天国』は日本にあった」では次のように述べている。

なぜほかならぬスクランブル交差点なのだろうか。代々木公園でも良さそうだし、同じく渋谷の金王八幡宮のあたりでも良さそうな気がする。そして、斜め横断を禁止すると、なぜ騒ぎは防げるのか。実は、スクランブル交差点と斜め横断は、戦後、路上が歩行者に解放されるプロセスの起点であり、斜め横断は伝統的秩序に対する挑戦だったのである。(五)

特に歩行者天国は日曜日や祝日を中心に実施され、日常空間が一瞬のうちに非日常化する光景が広がった。事件等の影響により歩行者天国は一時中止されていたが、現在では再開されている。渋谷は若者が集まる上に、歩行者天国もスクランブル交差点もある。渋谷の象徴(シンボル)は何かといった意識調査も実施されているが、その結果幾つか紹介しておきたい。

株式会社 oricon ME が調査企画し、二〇一六年四月十九日～二十五日の期間、インターネット調査。全国の八〇〇サンプル(十代：四六／二十代：一五四／三十代：二〇〇／四十代：二〇〇／五十代：二〇〇)では次のような結果であったという。

物や場所、施設についての質問です。最も渋谷を象徴するものとしては「ハチ公銅像」が四十六．三％とほぼ半数の支持を得て一位になりました。二位は二十九．三％を占めた「スクランブル交差点」で、この二つが抜けた存在になっています。

「渋谷の待ち合わせ場所」として最も良いと思う

ところについても聞いていますが、ここでも「ハチ公銅像」が六十一・六％と圧倒的な支持を得て一位になりました。(六)

マイナビ賃貸も東京都で年齢不問・男女を対象に二〇一七年十月六日～二十日の期間で有効回答数三〇〇サンプルの結果を次のように発表している。

【質問】〈東京〉“渋谷の象徴”といえば何だと思いますか？

第1位・・・ハチ公銅像：五〇・〇％（一五〇）
第2位・・・駅前スクランブル交差点：二五・七％（七七）
第3位・・・SHIBUYA 109：十一・三％（三十四）
第4位・・・SHIBUYA TSUTAYA：二・三％（七）
第5位・・・モヤイ像：二・〇％（六）
第6位・・・センター街（バスケットボールストリート含む）：一・七％（五）
第6位・・・タワーレコード 渋谷店：一・七％（五）
第8位・・・渋谷ヒカリエ：一・三％（四）
第9位・・・Bunkamura：一・三％（四）
第10位・・・道玄坂：一・〇％（三）
※第11位以下は省略(七)

このふたつは民間による最近の調査結果を公表したものであるが、その結果は想定通りの内容だ。「ハチ公銅像」と「スクランブル交差点」が圧倒的に差をつけて一位と二位を占めている。また、南後由和インタビュー「渋谷のハロウィンは何の夢を見たか―スクランブル交差点から考える」(二〇一七年一月六日）では次のように述べている。

そしてもうひとつ、渋谷には興味深い変化が起きています。リオオリンピックの閉会式で流れた東京大会のＰＲ映像は、渋谷スクランブル交差点の場面から始まりましたよね。渋谷スクランブル交差点は東京の都市イメージを代表するスポットとして、近年は国内のみならず世界的に注目されています。そしてその渋谷の変化を端的に表している現象が、ここ数年で話題になっている、ハロウィンです。（八）

スクランブル交差点が渋谷の象徴となったのは一体いつからなのか。光岡健次郎他『ザ・渋谷研究』（一九八九）にはスクランブル交差点は取り上げられているものの、ハイタッチ等には全く言及はない。この時点はこうした現象は無かったといってよいだろう。高久舞「渋谷の《祝祭》―スクランブル交差点につどう人々―」（二〇一三）には一九八六年以降の新聞記事から渋谷のスクランブル交差点等をキーワードにした表がある。それによれば、一九九六年六月三日、八月六日にテレビ番組においてスクランブル交差点内で縄跳び等をして道交法違反や書類送検されたとの記事がある。日韓ワールドカップ開催中の二〇〇二年七月一日の記事に日本対チュニジア戦のあと、スクラブル交差点でサポーター同士が出合い頭にハイタッチしたという内容を掲載した。その後は南アフリカワールドカップが開催された二〇一〇年六月の記事にも日本対カメルーンの後にスクランブル交差点でのハイタッチと歓声があったことが報道されている。（九）最近では二〇一八年六月にはロシアワールドカップでは日本対コロンビア戦、日本対セネガル戦でもスクランブル交差点は盛り上がったと言う。（十）

サッカー以外でスクランブル交差点が盛り上がったのはいわゆるカウントダウンの時である。カウントダウンイベントがいつから始まったのかは定かではない。二〇〇一年に一部行われたが、突発的に起きたカウントダウンで大騒動になったのは二〇〇九年の大晦日ではなかっただろうか。(十二)その後は、二〇一五年には渋谷区が大晦日にスクランブル交差点でのカウントダウンを実施した。交差点内でステージを設けた。この時、交差点内には日本人よりも外国人が多かったと言う。(十三)

このような流れを見ると、スクランブル交差点が祝祭として集まる場として象徴的な役割を果たしたのは、二〇〇二年の日韓ワールドカップということになりそうだ。その後もワールドカップでの日本代表チームの活躍とリンクしながらスクランブル交差点に人々が集結することになったと見てよいだろう。そして、これまで自然発生的に集結していたスクランブル交差点で二〇一五年には渋谷区が中心となりカウントダウンイベントが開催された。(十三)

さらに、二〇一六年〜二〇一七年のカウントダウンでは、渋谷区・地元商店会・エリアマネジメント団体が一体となり「渋谷カウントダウン実行委員会」を組織、スクランブル交差点を歩行者天国にし、約六万七〇〇〇人が集まった。(十四)今後は新しい元号を迎えることや二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックを控えて、こうした盛り上がりはますます拍車がかかることは想定されることだ。

四　渋谷とハロウィン

ハロウィンは本来十月三十一日の行事であるは

ずが、いつの間にか長期化の傾向になっている。これにはテーマパークなどが九月上旬からイベントを開始していることが大きな引き金になっていることは否定できないだろう。高久舞「渋谷の《祝祭》―スクランブル交差点につどう人々―」(二〇一三)では、少なくても二〇一一年頃までは新聞記事ではハロウィンでスクランブル交差点や渋谷センター街で騒動になったことは紹介されていない。

二〇一一年という年がひとつのキーワードになるのではないかと考えている。二〇一一年で注目すべきことは二つある。第一に三月に東日本大震災があったこと、第二に大阪のユニバーサル・スタジオ・ジャパンのハロウィーンナイトが開始されたことだ。その期間は二〇一一年九月六日(火)～二〇一一年一一月三日であった。東日本大震災により「絆」が注目を浴び、家族というものがあらためて考えさせられた機会となった。拙著「ポプカルチャーとしてのハロウィン」でも言及したが、二〇一五年のハロインは市場規模ではバレンタイン・デーを越え、クリスマスに次ぐ大イベントとまでに成長した。(十五)

このように見ると、ハロウィンの時期に渋谷に若者が集まってくる要因は次のように整理できるのではないだろうか。

一　もともと渋谷は若者の街としてファッションや流行のものが集まっていた。

二　二〇〇二年の日韓ワールドでスクランブル交差点でのハイタッチ・ムーブメントが行われ、その後もワールドカップでの日本代表の活躍にリンクして断続的に行われていた。

三　二〇一五年、二〇一六年と渋谷区などの行政側も加わり、スクランブル交差点でカウントダウンイベントが開催された。

四　ハロウィン市場規模拡大が二〇一五年に訪れ、同じ時期にスクランブル交差点でのカウントダウンイベントが開催されたことに触発され、まずは渋谷に集結し始めた。

五　スクランブル交差点、道玄坂、文化村通りは道幅もひろく、交通量も多い。また、道玄坂は路線バスの経路になっている。このため、渋谷駅前の待ち合わせ、その後、センター街への移動という流れが出来上がった。

六　センター街やその周辺には東急ハンズ、西武のロフト、ドン・キホーテをはじめ、いわゆるハロウィングッズを大量に扱う店がある。

七　マスコミに報道もあるが、ＳＮＳを通して渋谷に行けば何か楽しいことがある、また、インスタ映えする写真が撮れると期待して、とりあえず渋谷に言ってみる。二〇一六年八月のリオオリンピックの閉会式では日本の への引継ぎセレモニーの映像は実質的には渋谷のスクランブル交差点から始まっている。

八　日常ではあり得ない、非日常化（劇場効果）を体験してみたいという気持ちから友だちと渋谷に行ってみようという気持ちが生じる。

九　外国人もインターネットを通して渋谷スクランブル交差点の存在を知り、さらに海外の映画では『ロスト・イン・トランスレーション』（二〇〇三）、『ワイルド・スピードX3 TOKYO DRIFT』（二〇〇六）、『バイオハザードIV アフターライフ』（二〇一〇）が渋谷も舞台となっている。

九つのポイントを上げてみたが、第二、第三、第四の三つがかなり大きな要因ではないかと思える。規制や禁止というものが日本の場合には弱く、渋谷スクランブル交差点でのハイタッチシーンを見

ても、そこで逮捕者が続出しているわけでもないため、若者は「容認」されていると受け留めているだろう。

しかし、人が集まり過ぎて事件や事故が起きるのは防がなければならない。日本はアメリカとは異なり、路上で飲酒することが容認されている。これも群集心理に加え、自制心を失くす大きな理由のひとつになるだろう。早い時期にハロウィンの対策を発表し、規制すべきことは規制するという態度も必要だろう。では、早い時期とはいつ頃が適当だろうか。それはＴＤＬやＵＳＪのハロウィンが開始される九月上旬に合わせ、プレス発表はもちろんのこと、関係する団体のＨＰからの発信も必要かもしれない。主導するのは渋谷区がよいかもしれない。

エピローグ

渋谷も必ずしも一枚岩ではない。様々な業態の店があり、振興会や商店組合のようなものもそれぞれの思惑があるはずだ。渋谷ハロウィンの騒動の中心はセンター街である。「変態仮装行列」と若者をいくら形容しても解決にはならない。むしろ、二〇一八年の騒動は起こるべきして起きたと言ってよいだろう。ハロウィンに渋谷に集結する若者に自制心やモラルを求めることも当然必要ではあろうが、最も被害を受けているセンター街や渋谷区の行政・警察がある程度の方向性をかなり早い時期から示すことが求められるのではないだろうか。渋谷区は二〇一九年五月十三日にはハロウィンの時期にはセンター街付近での飲酒を禁止する条例を定める予定があることを発表した。この条例の適用範囲がハロウィンだけとなるのか、カウンダウンイベントやクリスマス、ラグビーワ

ールドカップ、オリンピックなどの対応での線引きをどうするかは賛否両論が当然あるはずで、これをどうさばいていくかが渋谷区の正念場ではないだろうか。（十六）

注

（一）筆者は二〇一八年のハロウィンについて次のマスコミにおいてコメントを述べた。

・「羽鳥慎一モーニングバード　渋谷ハロウィーン狂想曲の波紋」（テレビ朝日、二〇一八年十月三十日）に出演。

・「主催者なし、ステージのような魔力　渋谷ハロウィーン　マナー守って」（『東京新聞』二〇一八年十月三十一日、朝刊第二十二面にコメント）

・「Nスタ　ハロウィーン　なぜ渋谷がこんな事に？」（TBS、二〇一八年十一月一日）に出演、コメント。

（二）佐々木隆「ポップカルチャーとしてのハロウィン」（『武蔵野学院大学日本総合研究所研究紀要』第十三輯、武蔵野学院大学日本総合研究所、二〇一七年三月）、二～三頁。

（三）佐々木隆『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係　増補版』（武蔵野学院大学佐々木隆研究室、二〇一九年五月）、一九二〇頁。

（四）高久舞「渋谷の《祝祭》―スクランブル交差点につどう人々―」（石井研士編著『渋谷の神々』雄山閣、二〇一三年二月）、三一七頁。

（五）岡本亮輔「なぜ人はスクランブル交差点に集まるのか『世界最大の天国』は日本にあった」（https://president.jp/articles/-/25477）（二〇一九年四月十三日アクセス）

（六）「『渋谷に関する意識・イメージ調査』、

最も多くの人が持つ渋谷のイメージとは〜」（https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000044.000007103.html）（二〇一九年四月十三日アクセス）

（七）「『渋谷の象徴』といえば何？1位ハチ公、2位駅前の●●」（https://chintai.mynavi.jp/contents/ranking/20171206/r246/）（二〇一九年四月十三日アクセス）

（八）「渋谷のハロウィンは何の夢を見たか―スクランブル交差点から考える」（二〇一七年一月六日）（https://synodos.jp/intro/18813）（二〇一九年四月十五日アクセス）

（九）高久舞「渋谷の《祝祭》―スクランブル交差点につどう人々―」（石井研士編著『渋谷の神々』雄山閣、二〇一三年二月）、三一八〜三二三頁。

（十）「日本W杯初戦で歴史的勝利！渋谷スクランブル交差点は何時までっ盛り上がってた？」（https://www.fnn.jp/posts/00326710HDK）（二〇一九年四月十五日アクセス）／「興奮の渋谷スクランブル交差点＝サッカーW杯」（ttps://www.youtube.com/watch?v=HCuj3hPC3_I）（二〇一九年四月十五日アクセス）

（十一）石井研士『渋谷学』（弘文堂、二〇一七年四月）、四十九頁。

（十二）同右、四十四〜四十五頁。

（十三）同右、四十四頁。

（十四）「渋谷で六万七〇〇〇人がカウントダウン！スクランブル交差点は初の『歩行者天国』に」（https://www.walkerplus.com/article/97146/）（二〇一九年四月十六日アクセス）

（十五）佐々木隆「ポップカルチャーとしての

ハロウィン」、一頁。

（十六）「ハロウィーン対策　駅周辺の路上飲酒禁止条例目指す渋谷区」（https://www3.nhk.or.jp/news/html/20190513/k10011914021000.html）（二〇一九年五月十三日アクセス）